

入所・進級から1か月がたちました。笑顔いっぱいの毎日を過ごし、給食もよく食べて、保育所での生活にも少しずつ慣れてきた様子の子ども達ですが、新しい環境のストレスも現れやすいこの時期は急に体調を崩してしまうお子さんもいます。十分な睡眠をとって、身体と心を休ませてあげてくださいね。

5月5日は「こどもの日」

1948年（昭和23年）に5月5日が「こどもの日」となり、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日」として、国民の祝日に定められました。

もともとの日は男の子の健やかな成長を願う「端午の節句」でもあることから、柏餅（かしわもち）や粽（ちまき）を食べる食文化があります。柏餅の柏の葉は新芽が出ないと古い葉が落ちないため、新芽を子ども、古い葉を親に見立てて「跡継ぎが途絶えない」、「子孫繁栄」と結び付け、江戸時代から縁起の良い食べ物として食べるようになったそうです。粽は中国から端午の節句が伝来したときに一緒に伝来し、厄除けなどの力があるとされた伝統ある食べ物だそうです。

保育所では、窒息予防の観点からこのようなお餅のおやつ提供は控えておりますが、代わりにこいのぼりの形をしたかわいいクッキーを用意しますので、お楽しみに♪

窒息等の事故が起きやすい乳幼児期は、硬いもの、丸くてつるつるしているもの、弾力があるもの、粘着性の高いものなどにはご注意ください。

食品による子どもの窒息・誤嚥事故に注意！

－気管支炎や肺炎を起こすおそれ、硬い豆やナッツ類等は**5歳以下の子どもには食べさせないで**－

厚生労働省の人口動態統計の調査票情報（平成26年から令和元年までの6年間分）を基に、消費者庁で独自に分析を行ったところ、食品を誤嚥して窒息したことにより、14歳以下の子どもが**80名**死亡していました。そのうち5歳以下は73名でした。



事故事例：アーモンドを子どもに食べさせていた。口内に残したまま歩行中、もっと欲しがって泣いたところ、むせてせき込んだ。その後もせいせした感じがあり受診した。右気管支異物により入院6日間。（2歳）

事故事例：教育・保育施設において、給食中に幼児がブドウをのどに詰まらせ、病院に救急搬送したが死亡が確認された。（4歳）

(1) **豆やナッツ類**など、硬くてかみ砕く必要のある食品は**5歳以下の子どもには食べさせないで**ください。

喉頭や気管に詰まると窒息しやすく、大変危険です。小さく砕いた場合でも、気管に入りこんでしまうと肺炎や気管支炎になるリスクがあります。

(2) **ミニトマトやブドウ**等の球状の食品を丸ごと食べさせると、窒息するリスクがあります。乳幼児には、4等分する、調理して柔らかくするなどして、良くかんで食べさせましょう。

(3) 食べているときは、姿勢を良くし、食べることに集中させましょう。物を口に入れたままで、**走ったり、笑ったり、泣いたり、声を出したりすると、誤って吸引し、窒息・誤嚥するリスク**があります。

詳しくは：消費者庁ウェブサイト 生命・身体にかかわる危険
<https://www.caa.go.jp/notice/caution/life/>



問合せ先：消費者安全課 TEL03-3507-9137
FAX03-3507-9290

